

令和6年度第2学期が今日から始まります。1学期終業式から一か月余り、皆さんの夏休みはどうだったでしょうか。何かを一杯やってみる経験がしっかりできたでしょうか。

ちょうど一か月前、2024 パリオリンピック開会式がありました。8月11日の閉会式までの17日間に32競技が開催され、多くの人が観戦しました。銅メダルを獲得した松山英樹選手のほか、愛媛県から、曾我部京太郎選手、宮崎早織選手、垣田真穂選手、長谷川暁子選手が出場しました。生徒の皆さんは、どんな競技や試合の印象が残っているでしょうか。勝った選手の喜びの瞬間や、負けた選手の力及ばなかった落胆の表情をたくさん目にしたと思います。

オリンピックやパラリンピック、インターハイや夏の甲子園などの大きなスポーツイベントに限らず、生徒の皆さんの日常にも、いろんな「勝つ」や「負ける」があります。ほとんどの人にとって、「勝つ」ことに比べて「負ける」経験のほうが多くあるのではないかと思います。そこで、始業式にあたり、「勝つ」と「負ける」について、将来ある皆さんに覚えておいてほしいことを伝えたいと思います。

一つ目は、勝つことを目標にして誠実に努力することの大切さです。当たり前ですが、限られた条件の中で最善を尽くすことが、今日の皆さんを成長させることになります。二つ目は、負ける経験からしっかり学ぶことです。勝ちたいと思っても負けることはあります。苦い経験にはなりますが、負ける経験から学ぶことは、必ずあなたの明日につながる大事な経験になります。

私の経験では、負けを経験したことが、今でも自分を助けてくれていると感じます。負けた人にしか分からないことがあります。負けを引き受ける覚悟を持つことも必要です。そして、勝ち負けを超えて、それでも人は優しく豊かに生きることができるのだと思っています。

この2学期、各年次の皆さんは、それぞれの勝負に臨む機会があると思います。3年次生は就職や進学に向けて試験や面接に臨みます。2年次生は高校生活の折り返し点を迎えます。1年次生は次の時代の北条高校を担う自覚を持つ準備をしてください。

君たちには、君たちが思っているよりも、確かな力、強い力、大きな力があると、私はいつも本気で信じています。自分らしい勝負の仕方、自分の人生を切り拓いてほしいと願っています。

令和6年8月27日

愛媛県立北条高等学校長 渡邊 俊